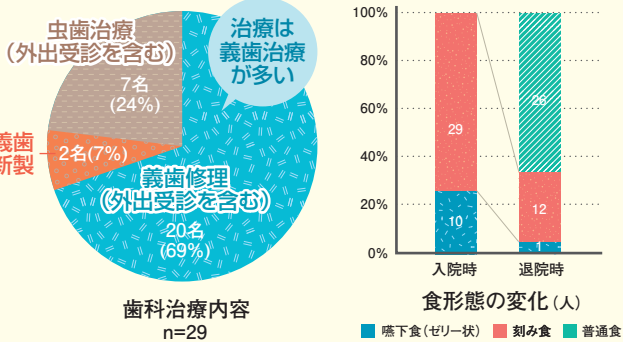


数字でみる錦海リハ

医科歯科連携で『食べる』を支援します！

平成27年度の退院患者さん191名の内、歯科治療が必要な患者さんは128名でした。そのうち99名は退院後の歯科受診をアドバイスし、29名は入院中に治療（外出受診を含む）を行いました。

『食べる』に関わる言語聴覚士と共に歯科衛生士も食事の観察を行い、義歯や口腔の問題を評価します。入院時、嚥下食（ゼリー状）・刻み食であった患者さんは67%の方が普通食（咀嚼を必要とする）を食べられるようになりました。



専門雑誌・書籍掲載

北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
当院における転倒予防対策チームの取り組み
総合リハビリテーション 第45巻 第4号、医学書院、2017.4.10
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、井後雅之(医師・名誉院長)
起居動作練習のコツ
臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス 極める大腿骨骨折の理学療法 医師と理学療法士の協働による術式別アプローチ、文光堂、2017.5
角田賢(医師・病院長)
地域包括ケアシステムに回復期リハビリテーション病棟が果たす役割は何か
地域リハビリテーション 12巻6号 巻頭言、三輪書店、2017.6
角田賢(医師・病院長)
回復期リハビリテーション医療について
鳥取県医師会報 No.744 病院だより(43)、鳥取県医師会、2017.6
竹内茂伸(言語聴覚士・副病院長)
第18回日本言語聴覚学会開催に込めた思い
日本リハビリテーション病院・施設協会誌 2017年夏 No.162、日本リハビリテーション病院・施設協会、2017

外部講演

北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
認知神経リハビリテーション概論
イントロダクションセミナー2017、山陰認知神経リハビリテーション勉強会主催、2017.5.28、松江市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
臨床施設におけるリスクマネジメントに対する実践報告
認定作業療法士取得研修 身体障害領域におけるリスクマネジメント、日本作業療法士協会主催、2017.6.10-11、大阪府
角田賢(医師・病院長)
今、必要な言語聴覚士のリスク管理
第18回日本言語聴覚学会 教育講演2、日本言語聴覚士協会主催、2017.6.23-24、松江市
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
最後まで口から食べたい。その思いに応えられる医科歯科連携とは—言語聴覚士の活躍の場を求めて—
第18回日本言語聴覚学会 シンポジウム2、日本言語聴覚士協会主催、2017.6.23-24、松江市
児嶋吉功(言語聴覚士)
多種多様な嚥下訓練法の効果と必要性を話す
第18回日本言語聴覚学会 ランチセミナー8、日本言語聴覚士協会主催、2017.6.23-24、松江市
角田賢(医師・病院長)
JRATのこれまでとこれから
公衆衛生従事者意見交換会、鳥取県主催、2017.7.6、米子市
両門美都、遠藤美紀、木村誉、横木貴史、鳥谷香蓮(理学療法士)
腰痛の基本と予防体操
第32回アクティブシニア健康教室、2017.7.28、米子市
角田賢(医師・病院長)
鳥取県中部地震における鳥取JRATの活動報告
平成28年熊本地震JRAT活動検証・研修会、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会主催、2017.8.5、熊本県
前原瞳(作業療法士)
認知機能低下によりADL介入が困難であった視床出血の一例—生活期での経過報告—
第23回鳥取県西部脳卒中シームレス会議、鳥取県西部脳卒中シームレス会議主催、2017.8.30、米子市
角田賢(医師・病院長)
全身管理とリスクマネジメント 回復期リハビリテーション病棟におけるリスク管理
回復期リハビリテーション看護師認定コース、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2017.9.19、東京都
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)、横木貴史、野坂進之(理学療法士)
転倒に関する知識と予防するための体操
第33回アクティブシニア健康教室、2017.9.22、米子市

学会発表

足立睦未(理学療法士)
10m歩行時間と10m歩行時間の運動イメージが退院後1カ月の患者の活動範囲に与える影響
両門美都(理学療法士)
脳梗塞により不全片麻痺を呈した症例に対して、短下肢装具の携み度の違いが歩行時の下肢筋活動に与える影響
両門美都(理学療法士)
歩行周期の時間的観点からみた脳血管疾患患者における歩行変動と歩行時の監視の有無
横木貴史(理学療法士)
脳卒中患者における重症度別にみた発症から回復期病棟入棟までの期間が在院日数、FIM利得、FIM効率に及ぼす影響

横木貴史(理学療法士)
大学病院と回復期リハビリテーション病棟間における人事交流を通じて得られた回復期理学療法に必要な視点
第52回日本理学療法学会大会、2017.5.12-14、千葉県

上村剛一(理学療法士)
訪問理学療法における間隙時間を活用した介護支援勉強会を通じた事業所間連携
第10回日本訪問リハビリテーション協会学会大会、2017.6.3-4、北海道

両門美都(理学療法士)
小脳性失調を有する症例に歩行器への重錘負荷量の違いに伴う歩行時下肢筋活動を表面筋電図より検討した一例
第54回日本リハビリテーション医学会学会集、2017.6.8-10、岡山県

伊藤美晴(言語聴覚士)
発話量が重度に障害された一症例の回復過程における他者とのコミュニケーション態度の心理的変化について

横田真由美(言語聴覚士)
重度失語症例にタブレット端末を導入する効果—回復期リハ病棟から生活期につなげる支援—

小谷優平(言語聴覚士)
日本言語聴覚学会に発表された抄録からみるSTの地域連携の傾向(第二報)

小谷優平(言語聴覚士)
回復期リハビリテーション病棟の脳卒中経管栄養患者における摂食嚥下機能障害の予後予測(第1報)

佐藤玲子(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
当院失語症サロン6年間の取り組み

佐藤菜実子(言語聴覚士)
鳥取県言語聴覚士失語症友の会「来多朗会」についてのアンケート調査報告

佐藤勝之(言語聴覚士)
動画(DVD)による情報提供の効果—生活期でも適切な食事環境を維持するために—

田中裕子(言語聴覚士)
若年失語症患者の退院後支援—外来リハビリでのフォローを通して—

佐藤勝之(言語聴覚士)
入院中から職場復帰を支援する—構音評価目的に実務を想定した講演会の開催—

佐藤玲子(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
当院での自動車運転再開に向けた評価について

佐藤勝之(言語聴覚士)
咀嚼機能向上に向けた取り組みの成果—入院から退院後までを通して—

児嶋吉功(言語聴覚士)
回復期リハ病棟における口から食べる支援—ST・DHが中心となった口腔ケアの統一と質の担保—
第18回日本言語聴覚学会、2017.6.23-24、松江市

北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
在宅リハビリテーションを実施したことでの業務改善の一考察
第44回中国四国リハビリテーション医学研究会、2017.7.2、香川県

三島将太(作業療法士)
新規面談および担当者会議に出席するための当通所におけるマネジメントの一考察
第36回全国デイ・ケア研究大会2017 in熊本、2017.8.4-5、熊本県

小谷優平(言語聴覚士)
回復期リハ病棟に経管栄養で入院となった脳卒中例の経口移行可否の予測—基礎情報と認知機能評価での検討—
第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学会大会、2017.9.15-16、千葉県

村上英里(作業療法士)
早期より復職支援を行った洋菓子職人に対する一考察

三島将太(作業療法士)
通所リハにて随意運動助型電気刺激装置(IVES)の使用をきっかけに自主訓練が定着し左手で食材固定が行えるようになった一症例
第51回日本作業療法学会、2017.9.22-24、東京都

北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
機械浴からの脱却を目的とした移行基準の妥当性の検討
第29回リハビリテーション研究会 in Yonago、2017.09.23、米子市

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時典のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたしたちは
回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL

NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300 [代表]

E-mail：kinkai-hp@koho-en.jp

URL：http://www.kinkai-rehab.jp

2017
VOL. 06

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院

地域包括ケアシステムに果たす役割

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるための
取り組みを実践していきます。

2000年に回復期リハビリテーション病棟が介護保険制度とともに作られて17年が経過しました。この17年の間に病院の機能分化が進行し、急性期病院はより急性期らしく、回復期はより回復期らしく、そして生活期はかかりつけ医が受け持っていくことが医療法の改正、診療報酬制度による経済的な誘導も含めて推し進められています。



自宅復帰に向けて患者さん宅で、玄関の昇降を確認する角田賢病院長

厚生労働省は、2025年を目途に、「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供」される地域包括ケアシステムの構築を目指していますが、この考え方は地域リハビリテーションの定義「高齢者や障害のある人々が、住み慣れた所で、そこに住む人々と共に、一生安全にいきいきとした生活

が送れるよう、医療・保健・福祉および生活に関わるあらゆる人々がリハビリテーションの立場から行う活動のすべて」ときれいに重なります。地域包括ケアシステムの構築へ向けたリハビリテーションの立場から行う活動がまさに地域リハビリテーションということになります。回復期リハビリテーション病棟も脳血管障害などで在宅生活が困難となった患者さんの在宅復帰を目指すという意味でまさにこの地域リハビリテーションの一部であり、地域包括ケアシステムの理念を実現する上で大きな役割を果たしているのは間違いありません。

患者さんが望むこれからの生活为目标としリハビリの計画と提供、その実現に向けた地域との連携に努めていきます。

その患者さんがどのような人生を歩んでこれ、これからどんな生活を望んでいるのか。それを実現するためにはどのような活動能力が必要で、それを可能とするにはどんな機能の改善や環境調整が求められるのか、その希望をどうやって生活期を担うスタッフにつなげていくのか、そういった視点が回復期リハビリテーション病棟とそこで働く我々に求められているのです。



アクティブシニア健康教室の様子。これまでに30回以上の開催実績があり、当院の理学療法士が地域の集会所等で腰痛や膝関節痛の予防運動や住環境整備の紹介等の講演を行っている。

単にFIMを向上させるだけでなく、退院後の生活を考えたリハビリテーションの実施と生活期との連携を行うことで「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」の実現することが今後構築される地域包括ケアシステムの中で我々回復期リハビリテーション病棟が果たすべき役割であると考えています。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

SPECIAL 最前線 2

第45回中国四国リハビリテーション医学研究会、 第40回日本リハビリテーション医学会中国・ 四国地方会を開催いたします。

来る12月10日(日)に米子コンベンションセンターBiG SHiPに於いて第45回中国四国リハビリテーション医学研究会ならびに第40回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会を開催させて頂くことになりました。

中四国9県の持ち回りで開催されている本会は、1985年の中国四国リハビリテーション医学懇話会から出発しており既に30年以上の歴史があります。1996年からは日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会(医師中心)と合同開催の形で現在まで続いています。研究会の方は療法士などのリハビリテーション関係職



種が中心の会です。

特別講演として、小児から成人までの高次脳機能障害に造詣の深い橋本圭司先生に「発達障害・高次脳機能障害にどのように対応するか」と題して、また脊椎外科の若き俊英である永島英樹先生に「脊椎外科の進歩」について、また、ランチョンセミナーではリハビリテーション栄養の分野で活躍されている管理栄養士の西岡心大先生に「回復期脳卒中患者における栄養障害とリハビリテーションアウトカム」と題してそれぞれご講演頂きます。参加費2,000円でどなたでも参加できますのでよろしくお願いします。



詳細につきましては、学会ホームページ
(<http://www.cs-reha.net/45/index.html>) をぜひご覧ください

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
名誉院長 井後雅之

SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション技術部の紹介 歯科衛生士のお仕事

医科と歯科の連携による「食べる」支援に 取り組んでいます。

当院は、急性期病院からリハビリを目的に入院患者さんを受け入れています。急性期病院では入院中義歯を外すことが多く、その結果義歯が合わなくなることがあります。また、病気や環境が変化したことで口腔ケアが出来ない患者さんが多くおられます。歯科衛生士は、入院初日に口腔内の状況や汚れの確認、義歯の適合の確認を行います。特に嚥下障害のある患者さんにおいて義歯の問題は嚥む・飲み込む・話す力に支障をきたしますので、患者さんやご家族と相談して、当院と連携している歯科医師に歯科往診を依頼します。往診時には口腔内の評価、摂食嚥下の状態を歯科医師に伝達し、言語聴覚士と共に治療を行います。また、口のリハビリも歯科医師や言語聴覚士と協働で行います。



当院と連携している歯科医師による往診の様子。当院の歯科衛生士、言語聴覚士が歯科診療の補助を行っている。

患者さん一人ひとりに合わせた口腔ケアについて アドバイスをしています。

口腔ケアは退院後も「口から食べるため」、「誤嚥性肺炎の予防」に欠かせません。患者さんやご家族に対して歯や義歯の磨き方、義歯の取り扱いなどについての助言をさせて頂いています。



歯科衛生士から患者さんへ口腔ケアの助言

また、口腔ケアで介助磨きを要する患者さんの場合には、自立に向けて病棟スタッフへの伝達も行っています。



歯科衛生士から病棟看護師へ
口腔ケア方法の伝達

TOPICS 01 簡易自動車運転シミュレーターを 導入しました

障害を持つ患者さんが自動車運転を再開する際には包括的自動車運転評価が重要視されています。

そこで当院では従来の神経心理学的検査と山陰中央自動車学校との連携による自動車運転適性検査に加えて、新たに簡易自動車運転シミュレーター(Simple Driving Simulator; SIDS)を導入しました。

この検査システムは、認知反応検査、タイミング検査、走行検査、注意配分検査で構成されており、より実践に近い評価が可能となります。今後はSIDSを用いることで、山陰中央自動車学校との連携がより強化され、患者さんそれぞれの状況に合わせた支援を行なえることが期待されます。



SIDS(竹井機器工業株式会社)を使用した評価

TOPICS 02 和食の専門調理師による スペシャルメニューを提供しました

平成29年7月27日(木)昼食に、和食の専門調理師が考案したスペシャルメニューの食事を提供しました。

メニューは、ご飯、大山鶏のもろみ焼き、山陰産すずきの南蛮漬け、季節の炊き合わせ、山陰産パイ貝の塩茹で、じゅんさいと長芋のゼリー寄せ、2食素麺のすまし汁、トマトゼリーで、旬の食材や地元の食材をふんだんに使用しました。食器や盛り付けにも趣向を凝らしました。患者さんより「おいしかった」「よかった」というご意見を多数頂き、大変好評でした。

今後も、食を通じて患者さんに喜んで頂けるよう、このような取り組みを企画してまいります。



和食の専門調理師によるスペシャルメニュー

TOPICS 03 第11回こうほうえんリハビリスタッフ 合同勉強会を開催しました

毎年テーマを設け、全エリアのスタッフを対象に合同勉強会を開催し、エリア間の交流や質の向上を図っています。今年度は平成29年7月23日(日)に、日本作業療法士協会の中村春基会長をお招きし、「地域における活動と参加に向けたリハビリテーション」をテーマに同時改定の動向、地域包括ケア、生活行為向上マネジメントなどについてご講演いただきました。参加者は計96名で、リハスタッフ以外にも医師、看護師、ケアマネジャーなどより多くの職種に参加していただくことで、様々な視点から活動、参加について知識を深めることができたと思います。



勉強会の様子

TOPICS 04 アメリカ ロサンゼルス研修報告

平成29年9月3日から1週間、法人の教育プログラムの一環であるアメリカ研修に当院から山瀬純 介護士が参加しました。

現地では高齢者介護施設や、主にアジア系移民を対象に住宅や保育、その他様々なサービスを提供する団体(リトルトーキョーサービスセンター)の見学、リトルトーキョーを中心に施設やサービスを展開している企業(ミレニア、ホームケアアシスタント、OC Kaigo Homes)や、南カリフォルニア大学に所属する家族介護者支援センターとの意見交換を行いました。両国間での制度やサービスの特徴はもちろんですが、文化や歴史、国民性など様々な視点から知識を深めることができました。また見学先の施設では当院の取り組みについて発表を行い現地スタッフと交流しました。



見学先の南カリフォルニア大学に所属する家族介護者支援センターにて